



開物成務

平成31年 2月 15日(金)発行

校長 津田 将美

いのちと 向き合うこと

2月5日(火)の朝会で「いのちに向き合う」というテーマで話をしました。

「いのち」と向き合った時に、私にはどうしても忘れることのできない思い出があります。それは、ジュンのことです。

ジュンは長く我が家にいた犬で、15年もいっしょに過ごしてきた大切な家族でした。当時大学生だった私は、学年が上がるにつれて授業にも余裕ができて、散歩は自然と私の役割になりました。

ただ高齢になってきたため、散歩は大好きだったのですが、ペースは落ち気味で(太りすぎでもあったもので…)、だんだんとジュンのペースのゆったりとした散歩になってきました。それでも私が散歩に誘うと、うれしそうな目でこちらを見てしっぽを元気に振るので、私にとっても楽しみの時間でした。

そんなジュンも高齢のためか病気にかかり、元気がだんだんとなくなってきました。それでも散歩は喜ぶので、いっしょに歩きながら目に溜ってしまう白い膜をととても心配しながら何度も何度もとったのを覚えています。

ある日、とても疲れて帰ってきた日のことです。その日はどうしても重い疲れが残っていて、帰ってきて目が合ったジュンにあやまりました。

「ごめん。ジュン、今日はだめだ。」

そんな雰囲気を感じて、ジュンは潤んだ目を私に向けました。

「えっ、行かないの? どうして?」

目は、そう言っています。

「ごめん、今日はだめなんだ。明日また行こう。」

そう声をかけて、私は家に入って休みました。

ジュンは何かを訴えるような目で、ずっと家に入る私を見送っていました。

翌日目が覚めた私に、父が声をかけました。

「今朝、ジュンがなくなったよ…。」

「えっ!!」

急いで庭に出てみると、植えてある木の根元にジュンは横たわっていました。

「なんで? 昨日あんなに…」

そう言った一字一句を覚えています。「散歩に行きたがっていたのに…」そう言おうと思っても涙があふれてきて、家族に見られないようにトイレに駆け込みました。そこで、思いっきり泣こうと思ったら、知らず知らずに声もれて、それが慟哭に変わってしまいました。きっと家族も、もしかしたら近所の人にもびっくりしていたと思います。

いのちと向き合った時、「次に」はありません。その時にできること、やるべきことをその時にしなくては、「次に」はないのだということを大きな後悔と共に胸に刻みました。私にとって悲しい思い出ですが、ジュンとの大切な、忘れてはならない思い出でもあります。

開成小学校のすてきさんたちには、身近な小さな生命や、そばにいる仲間、大切な家族や自分を取り巻く多くの人々のいのちを大切に、今できることを、強い気持ちと勇気で行動にうつすことのできる人になってほしいと思います。



生活アンケートを実施しました

2月4日(月)に、生活アンケートを全校で行いました。今年度3回目の実施です。この結果をもとに、各学年、各クラスでいじめに関わる芽を確認、共有しながら丁寧に対応していきます。

いじめに対するアンケートについては、報道等でもかなり取り上げられ、その在り方も問われています。本校が昨年度より取り組んでいるCAP研修でも、子どもたち自身がいのちと人権を守るため、安心・自信・自由を獲得するために大切なことを学ぶと共に、家庭教育学級と連携し、保護者の皆様にも共に考えていただく機会を設けました。

自ら行動を起こすということは、人としても大切に勇気のある行為だと思います。そういうひとつひとつの勇気を尊重し、学校全体で守っていけるように配慮していきます。

いのちを守る人々

瀬戸屋敷から開成小学校につながる通学路の横断歩道に毎日立って、子どもたちの安心・安全のために登校指導してくださっているのが、菊川さん、武藤さんです。お二人とも、登校指導を始めてから12年になるそうです。小学校の入学から、中学生、高校生になるまで見守っている子どもたちもいるということです。この日伺った時には、

「あと二人来てないなあ…。」

とおっしゃっていました。毎日その場所を通る子どもたちを把握して、通り終わるまで安全を確保していただけていることは、開成小学校のそして地域の財産だと感じました。

「あいさつは、よくできますよ。できない子ども2度目に声をかけるとしてくれます。」

とは、菊川さん。多くの地域の皆様に支えながら、開成小学校の子どもたちのいのちが守られています。

交通指導の様子です。

右が武藤さん、左が菊川さんです。毎日、本当にありがとうございます。



戦争体験を語り継ぐ人々

2月4日(月)には、「円中戦争体験を次世代に伝える会」のみなさんに戦争についての特別授業を6年生にさせていただきました。多くの資料と実体験を生言葉で聞くことができたことは、6年生にとって貴重な体験となりました。

「子どもたちは、とても真剣に聞いていましたね。とても良い6年生です。」

という言葉もいただき、うれしく思いました。戦争という大きな悲劇を「伝えよう」という使命を自覚されているみなさんの強い思いにふれることは、子どもたちの心にも重く、忘れてはいけない学びとして残ったようです。

以下は、子どもたちの感想の抜粋です。

○戦争が起きた時のおそろしさや生活の様子について詳しく教えていただき、本当にありがとうございました。この授業で、今の私たちの生活がどんなに幸せなことか、改めて知る良い機会となりました。これからは、毎日の食事やかんきょうに感謝する気持ちをもって生きていこうと思います。

○…私はずっと戦争を知ってみたいだったので、今回の話を聞いて、ひいおじいちゃんとひいおばあちゃんが「戦争はおそろしい」と言っていた理由がわかりました。私たちが今生きているのは、先祖が戦争を生きぬいてくれたおかげなので、何があっても「命が一番、平和が二番」が大切。平和を続けていけるように、がんばっていきます。

たくさんの貴重な資料を見せていただきながらのお話で、子どもたちも真剣な表情でした。



いのちとしっかりと向き合うことの積み重ねが、平和へとつながっていくのだと思います。そのためにも、子どもたちが言うように、今の生活を当たり前と思わずに、周りに対して常に感謝の気持ちを持ち続けることが大切なのだと思います。貴重な体験学習の場となりました。